令和８年度（今年度）の学校評価

本年度の重点目標	①　安全で安心な学校づくり ②　教育活動の充実と授業改善 ③　教員の多忙化・多忙感解消

項　目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
①	開かれた学校の推進	・ブログや校内のサイネージで学校の取組を随時発信する。	・発信情報の精選や効率的なブログ、サイネージ作成方法などを各部で工夫する。
	いじめ問題における迅速的な対応と未然防止	・いじめ・不登校対策委員会を中心に組織としての体制を整え、迅速に対応できるようにする。児童会・生徒会と連携し、いじめ防止啓発活動の充実を図る。	・実際にトラブルが起きたときに役割分担を明確にし、事実確認や指導に対して早期に対処する。児童会・生徒会の啓発活動が周知できるようにブログ等を活用し、情報発信の方法を工夫する。
	主体的に健康や安全を意識し行動できる子どもの育成	・日々の指導に加え養護教諭や栄養教諭による授業や保健委員会の活動を充実させ、幼児児童生徒の健康、安全意識の啓発を図る。	・教師が共通意識をもって指導に当たれるよう研修やヒヤリハットなどを活用する。学校での取組を家庭でも実践してもらえるようブログやサイネージ等を活用する。
	仲間と協働できる安全で安心な寄宿舎づくり	・舎生の実態を丁寧に把握し、係活動や舎生会、行事等を通して仲間と協働したり安心して生活したりできる寄宿舎を意識できるように働きかける。	・個々の目標や課題を指導員全体で共有し、指導・支援する。保護者との連携を密にし、寄宿舎の様子を伝える取組を行う。
②	授業の充実・改善	・幼児児童生徒の実態に応じた授業目標、手だて、評価の在り方を各部で話し合う機会を設け、教育課程を含めて検証、改善を図る。	・幼稚部、小学部、中学部、高等部で共通理解を図り、学校全体として系統性のある指導・支援となるよう留意する。
	キャリア教育の推進	・「先輩の話を聞く会」や「進路について考える会」など部を越えた授業交流を活用して、自分の将来像をイメージできるようにする。	・進路に関わる情報を分かりやすく発信する。進路希望調査や懇談等を通して家庭との連携を密にする。より充実した交流になるように交流の事前、事後に他部や他分掌と情報共有の場を設ける。
	正しい日本語の読み書きの力の育成	・日記、作文など文を書く機会を数多く設定するとともに、教科や生活場面における言語指導の充実を図ったり掲示物を工夫したりする。	・研修や研究、部会等で具体的な取組や指導法を共有する機会を設定し、連続性のある指導につなげる。
③	効率的な会議運営	・会議方法に応じた資料の確認を徹底する。	・スムーズに会議を運営するために、事前の資料や、書面開催の会議の資料の確認を徹底する。また、その他の会議を円滑に進める方法を検討する。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	①　安全で安心な学校のために、実践的な取組がなされている。 ②　教育活動の充実のために、授業改善、キャリア教育の推進等の取組がなされている。 ③　教職員の多忙化・多忙感解消のために、業務の効率化のための方策がとられている。

令和７年度（昨年度）の学校評価

本年度の重点目標		①　安全で安心な学校づくり ②　教育活動の充実と授業改善 ③　教員の多忙化・多忙感解消		
項目	担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
①	部主事	開かれた学校の推進	・ブログや校内のサイネージで学校の取組を随時発信する。	よい評価が多かったが、更新頻度を増やしてほしいなどの意見があった。継続して随時最新の情報を発信する。
	生徒指導部	いじめ問題に対する組織的な対応の確立	・幼児児童生徒間で起きたトラブルは各部で情報共有し、必要に応じていじめ不登校対策委員会を開き、全体で指導方針等を検討する。	幼児児童生徒間で起きたトラブルを各部で情報を共有したり、委員会等で対応を検討したりして組織的に対応することができた。実際にトラブルが起きたときに、保護者への迅速な連絡が必要となるが、事実関係を的確に整理・把握することが課題となっている。また、児童会・生徒会が行っているいじめ防止活動を多くの人に知ってもらうために情報発信の方法を工夫する必要がある。
	保健体育部	主体的に健康や安全を意識し行動できる子どもの育成	・日々の指導に加え養護教諭や栄養教諭による授業や保健委員会の活動を充実させ、幼児児童生徒の健康、安全意識の啓発を図る。	全体で80%（前年度比率３%増）を超える保護者が子どものよい変化を実感できていることが分かった。今年度実施してきた健康安全意識向上のための取り組みに一定の効果があったと評価できる。部によって評価が分かれる部分がある。各部の実態に応じた取組の充実や、その様子の分かりやすい発信をしていく。
	寮務部	仲間と協働できる安全で安心な寄宿舎づくり	・舎生の実態を丁寧に把握し、係活動や舎生会、行事等を通して仲間と協働したり安心して生活したりできる寄宿舎を意識できるように働きかける。	全ての保護者がよい評価だった。継続して、丁寧な家庭との連携、仲間との協働、安心につながる舎生の実態に応じた指導を行う。
②	教務部	授業の充実・改善	・教師は、授業時間内に「まとめ」、「振り返り」の時間を設けることに努め、児童生徒自身が何を学ぶことができたのか、どこが分からなかったのかを明確にする。	各教科の特性や子どもの状況に合わせて「振り返り」を行い、授業に生かそうと努めることができた。しかし、学習に抵抗を感じる子どもが年々増えている状況にあることがうかがえる。個に応じた段階的な手だてを考えていく必要があるため、部間の連携をより深めていきたい。

	進路・地域支援部	キャリア教育の推進	・「先輩の話を聞く会」や「卒業生の話を聞く会」、児童会と生徒会の交流、部を越えた授業交流、交流プラザでの交流を活用して、自分の将来像をイメージできるようにする。	幼小保護者は、おおむねよい評価だった。交流プラザ参加保護者もおおむねよい評価だった。中高保護者からは厳しい評価が多かったので、引き続き情報の発信や懇談等を通した家庭との連携が課題である。進路希望調査の時期や期間などを検討していく。
	自立活動・研修部	正しい日本語の読み書きの力の育成	・日記、コラム学習、作文など文を書く機会を数多く設定し、指導方法の工夫を各部で検討し、日本語の読み書きの指導に取り組んでいく。	保護者アンケートの結果は、全般的には昨年度と有意な差はなかった。作文指導はどの学部も重要な学習内容として取り組めているが、日記やコラム学習は児童生徒の課題に対する姿勢によって取組状況に差が出ている。今後も、日本語の読み書きの大切さを児童生徒、保護者に伝えていく必要がある。
③	部主事	効率的な会議運営	・協議内容に応じた会議方法で行う。	書面で会議を実施したことなどが、よい評価につながったと考えられる。継続して効率的な会議運営を検討するとともに、個々の職員が書面で実施した会議の内容を確認する高い意識をもつために、定期的な声掛け、確認を行う必要がある。

総合評価	安全で安心な学校づくりに向けて、組織的に取り組むことができ、成果もあげられた。また、教育活動の充実と授業改善についても、部ごとの取組や研究を通して授業改善が図られた。一方で、こうした取組や成果について、継続して最新の情報を分かりやすく発信していくことが求められる。 多忙化解消については、会議の書面開催など今年度新たに見直した業務について定着を図り、効率的な会議運営を続けていきたい。